

関西圏地盤情報データベース研究利用報告書

研究課題	古陸水環境変遷による淡水魚類多様化過程の解明		
研究者	京都大学大学院理学研究科・准教授 渡辺 勝敏		
研究期間	2022年 4月 ~ 2023年 3月	報告日	2023年 5月 9日
<p>研究目的： 本研究は、瀬戸内地域の平野部・盆地部に広く分布する淡水魚類であるヨシノボリ属魚類の多様化過程を解明することを目的としている。本属魚類は氷河性海進を受けやすいと考えられる平野部に多く産することから、海進にともなう個体群の縮小や分断とその後の海退による個体群の拡大・接触が繰り返された可能性が高い。そこで、関西圏地盤情報データベースのボーリングデータを用いて、各海成粘土層の面的分布を明らかにすることで、各平野・盆地部における海進をうけた範囲・年代を地質学的な証拠として示すことを狙いとした。</p> <p>研究内容と成果： 関西圏地盤情報データベースのボーリングデータを用いて、各海成粘土層の面的分布を明らかにすることにより、各平野・盆地部における海進をうけた範囲・年代の推定を行った。それに基づき、関西地域におけるヨシノボリ属魚類の過去の生息域の変遷について検討を行った。これらの地質学的証拠と琵琶湖淀川水系を中心とした地域から得たヨシノボリ属魚類の組織サンプルを用いて行った遺伝解析の結果から、各平野・盆地ごとの陸水系の接続様式の歴史的变化に伴う個体群の接続・隔離と、各個体群の遺伝的特徴および多様化の関係について考察を行った。本研究に関する論文を現在準備中である。</p>			
<p>公開資料（論文等）：</p>			

※貸出期間終了後、研究利用報告書（本様式）と研究成果（論文等）を提出してください。
 ※研究利用報告書は、KG-NETのHPで公開します。